

書窓

No.445

2022.6

太子町立図書館 編集発行

〒671-1561

兵庫県揖保郡太子町鰯

1310 番地 7

Tel (079)277-1580

Fax(079)277-5684

Shoso

子どもの本だな 103

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

かいじゅうたちのいるところ

モーリス・センダック さく
じんぐう てるお やく (富山房)

ある晩マックスは、おおかみのぬいぐるみを着て大暴れ。お母さんに怒られ、夕飯抜きで寝室に放りこまれました。すると部屋の中に、によきりによきりと木が生えて森になり、そこへ波が打ちよせて船を運んできました。船に乗って1年と1日航海すると、着いたところは“かいじゅうたちのいるところ”。マックスはかいじゅうならしの魔法を使い、目をじーっと睨んでかいじゅうたちを黙らせた。王様になったマックスは、かいじゅうたちと一緒に大暴れ。でもそのうち、マックスはだんだん寂しくなってきました。マックスは王様をやめ、船に乗りこみ1年と1日航海すると、いつの間にやら自分の寝室。温かい夕ご飯がちゃんと置いてありました。

個性豊かな怪獣たちは、グロテスクながらもどこかユーモラスです。絵がどんどん大きくなっていき、マックスと怪獣たちが見開きいっぱい生き生きと大暴れする様子は愉快です。4歳くらいから。(池之上)

海底二万海里

J・ベルヌ 作 清水 正和 訳 A・ド・ヌヴィル 画 (福音館書店)

怪物を見たという船が次々と現れ、その正体を調べる遠征隊がぐまれました。博物館教授のアロナックスと従者のコンセーユ、銚うちのネッドは、艦に乗り込み怪物を追跡します。ところが、艦は怪物と衝突し、衝撃で3人は海に投げ出されます。命からがら流れ着いた先は、なんと怪物の背中でした。怪物は、ネモ艦長が率いる潜水艦ノーチラス号だったのです。ノーチラス号に乗ることになった3人は、ネモ艦長と世界中の海を巡り、大自然の驚異に出くわします。

ある日ノーチラス号は、全長8メートル近い大ダコの群れに襲われ、動かなくなります。海上に出てハッチを開けた途端、乗組員の1人がダコの足にとらわれました。ネモ艦長が斧でダコの足を切り落としますが、乗組員は海中へ。銚で応戦していたネッドも絡みつかれますが、ネモ艦長がダコのくちばしに斧をたたき込み、ネッドを間一髪で助けます。

巨大なシャコ貝が作ったヤシの実サイズの真珠や、ノーチラス号を押しつぶすほどの氷塊など、美しくも恐ろしい海底の世界を味わえます。ノーチラス号の行く先で起こる、危険と隣り合った未知との出会いに胸躍ります。12歳くらいから。(光藤)

6月	7月	6・7月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
9日	7日	塚森 地域内 10:30~ 10:50	沖代 地域内 11:00~ 11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~ 14:50	米田 公会堂 15:00~ 15:20	竹広南 公民館 15:30~ 15:50
16日	14日			原池団地 公民館 15:00~ 15:20	山田 掲示板前 15:30~ 15:50	原 太田東地区 農村交流 センター 16:00~16:20
23日	21日	広坂 公民館 10:30~ 10:50	上太田 公民館 11:00~ 11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~ 15:50	吉福 公民館 16:00~ 16:20

<お知らせ>

聖徳太子

クイズスタンプラリー



2022年は聖徳太子没後1400年の年です。図書館では、聖徳太子に関する本の展示と、聖徳太子クイズスタンプラリーをしています。初級・中級・上級のクイズに答えて、スタンプを集めよう!

・期間:8月30日まで



参加賞がもらえるよ!
みんな挑戦してね!

『琥珀の眼の兎』 エドモンド・ドウ・ヴァール 著

佐々田 雅子 訳 早川書房 382 頁 2011 年 11 月刊 2,300 円 (請求記号)Fウァ

著者は東京に住んでいた大叔父イギー(祖母の弟)から、根付コレクシオンを遺贈された。琥珀の眼の兎を始めとする264点の根付に魅せられた著者は、その来歴を調べ始める。

著者の一族は、ウクライナのオデッサから穀物商として富を成したユダヤ系エルフツシ家で、第二次世界大戦前までは欧州の主要都市に銀行や会社を持つ大富豪であった。19世紀後半、パリで「ジヤポニズム」が流行した折、曾祖父のシャルルによって264点の根付が買い取られた。彼はパリで有名な美術評論家であり、若い印象派画家の有力な支援者でもあった。その後、根付はシャルルの従弟・ヴィクトルの結婚祝いでウィーンに渡った。根付はヴィクトルの妻の化粧室に飾られ、いつしかイギーや著者の祖母エリザベトら子供達の遊び道具となっていた。しかし、ナチス・ドイツのオーストリア併合後、ユダヤ人は迫害され、エルフツシ一族は邸宅や根付を含めた美術品など全ての資産を没収されてしまう。ヴィクトル夫妻は失意のまま亡くなり、その子供たちもイギリスやアメリカに離散する。だが、ナチスがエルフツシ家の邸宅を占領し美術品を運び出していった時に、その手伝いのために邸に残されていたエルフツシ家の女中が、ナチスの目を盗んで根付を少しずつ運び出し隠していた。いつの日かエルフツシ家の子供たちに届けるために。根付は戦後、その女中からウィーンに戻ったエリザベトに返され、弟のイギーに渡った。そして、根付は日本に移住したイギーと共に故郷へと帰ってきたのである。

根付は、日本を出てパリからウィーンへ、そして再び戦後の東京へ：数奇な運命を辿り、エルフツシ家の繁栄と没落を見守っていた。華やかなパリの輝かしい世界に身を置いていても、シャルルや一族はユダヤ人であるが故に差別されることも多かった。そして、ナチスのユダヤ人迫害とそれによる一族の没落の様子には、胸が痛くなる。エルフツシ家とその故郷であるウクライナは、どちらも紋章と国旗に小麦が表されている。しかし今、その豊かなウクライナの小麦畑は、ロシアとの戦乱により踏み荒らされている。歴史を見守り続けた根付たちは、この現状をどう見ているのであろうか。(八木)

6月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						



- ▶ ×印は休館日
 [7/20 は祝日の振替
 6/30、7/29 は館内整理日]
- ※閉館時は返却ポストへ返却してください。
- ▶開館時間は 10:00~18:00
 金曜日は 20:00 まで開館

地下水

母の看病をしながら眺めた庭木に、一羽の雀の雛がおぼつかない羽と足でしがみつきチュンチュンと鳴いている。近づくと身をひそめ静かになったが、しばらくするとチュンチュンと親を呼んでいる。自然の営みを感じる瞬間だ。その時読んでいた『13歳からのレイチェル・カーソン』海を渡るモナーク蝶のことを語りながら「どんな生命についても、彼らが生活史の幕を閉じようとする時、私たちは、その終末を自然な営みとして受け取ります。：(私たち人間は各々の一生の長さを知ることにはできないが、人が)このような測ることの出来ない一生を終えることも、自然であり、決して不幸なことではありません」という文章に出会った。カーソンはその翌年、56歳の生涯を閉じる。昨年来、尊敬する先達や身近な人を次々に亡くした。何とも言えない喪失感に襲われたが、この文章にふっと心が軽くなった。

(西村)